

遺跡No	遺構種別	遺構No	時期	説明	グリッド	形態	主軸	長さ	幅	深さ	付属施設	出土遺物
60-260	古墳	0001	古墳時代後期	調査区内の北側に位置する。両側は調査区外へ延びる。南側は周溝が浅く、倒木痕などで攪乱され、ブリッジを持つかどうか不明であるが、周辺で確認されている古墳跡の状況から、ブリッジを持たない周溝の全周するタイプの円墳と考えられる。確認面における規模は、調査範囲で周溝内径約18m、周溝外径25mと推定される。墳丘部及び周溝部分は風倒木によって一部壊されている。墳丘盛土は既に削平されており、内部主体を確認することはできなかった。墳丘部はやや歪んだ円形を呈すると推定される。周溝の幅は2.9～3.4m、深さは確認面から北側で32cm、南側で8cmと一定でなく、北側の西寄りでは時期不明の土坑を削平して古墳が築造されている。土坑と重複している部分の最深部は125cmである。周溝断面形はU字状を呈し、墳丘側は急角度に立ち上がる。	—	円墳	—	—	3.40	0.32	—	—
60-260	古墳	0002	古墳時代後期	調査区内の南側に位置する。多くの部分が調査区外へ延びる。周辺で確認されている古墳跡の状況からブリッジを持たない周溝の全周するタイプの円墳と考えられる。確認面における規模は、調査範囲で周溝内径約17m、周溝外径約21mと推定される。墳丘盛土は既に削平されており、内部主体を確認することはできなかった。墳丘部はやや歪んだ円形を呈するものと考えられる。周溝の幅は調査範囲で1.9～3.2mを測り、深さは一定でなく、全体として凸凹の傾向が認められ、最深部で38cmである。周溝断面形はU字を呈し、墳丘側は段がついて立ち上がる。	—	円墳	—	—	3.20	0.38	—	埴輪
60-260	土坑	0001	—	調査区内の南西側に位置する。一部は調査区外へ延びる。	—	隅丸長方形	—	1.20	0.80	0.40	—	—